

YIC 看護福祉専門学校
令和5年度 第2回 教育課程編成委員会（看護学科）議事録

日時 令和6年2月27日（火）

15時30分～16時30分

会場 5階 カンファレンスルーム

委員出席者

- A 山口県看護協会 会長
- B 看護学科実習病院 看護部相談役
- C Y I C看護福祉専門学校 看護学科卒業生

学内出席者

- D 校長
- E 副校長
- F 看護学科 学科長
- G 看護学科教員 書記

1. 校長挨拶

本年度、第2回目の教育課程編成委員会になる。カリキュラムは学校の中核であり、日々改善が求められるところでもある。外部の視点から、私たちの気づかない点をご指導いただきたい。

2. 報告・議事（看護学科）

議長 規定第6条により E が行う

- F : (1) 令和5年度の教育課程に基づく取り組みと評価・・・資料I－(1)
(2) 令和6年度教育計画・・・資料I－(2)

資料Iに沿って説明

<質疑応答>

- E : 新カリキュラムになって、求められる能力として、看護実践能力や多様な生活者の健康をサポートする能力が求められている。そのような看護師を養成するために、どのようなところ、教育に力を入れているのかをもう少し詳しく説明いただきたい。
- F : 領域横断をする科目として、周手術期や健康支援論などがある。例えば、健康支援論では、発達段階に合わせた健康課題についてグループワークを通して考え、実際に模擬対象者に健康指導を集団指導や個別指導という方法で行った。健康課題解決活用法では、特徴的な健康課題に対してグループワークを通して、対象者の背景を踏まえて考え、どのような点に着目して看護を展開していくのかを考えることに力を入れている。薬物療法と看護では、年齢に応じてよくみられる疾患や内服について、有害事象も含めて指導できるようなグループワークと発表に取り組んでいる。各科目で、学生にも評価基準を伝えている。グループごとに課題が違うので、他のグループの発表からの学びも深められるようにしている。また、グループワークでは

ただ年代別（発達段階別）に分けるのではなく、対象者の生活背景や社会背景からも学びが深まるように組み立てている。

E : 今年度からの取り組みなので、領域横断の科目の良いところを評価しながら、工夫を重ねていけばよいと考える。

B 委員には、貴院で急性期の実習を受けていただいている。急性期の入院患者の看護において、不安の強い患者への支援をしていくことがあると思うが、学生にどんな力をつけて欲しいと考えておられるか。

B 委員：学生の実習記録やオリエンテーションを見ていると、個人差はあると思うが、学生同士がグループで学習しているときや学びの会、カンファレンスなどをもっと深めていくとよいと思う。学んだことをそのままにしないということ。

実習の態度は非常に真面目であると思う。記録も再考しながら書かれていると思う。コロナも5類になり、こちらも落ち着いて実習が受けられるようになったようには思う。地域Ⅲの実習では、もともと合併症を持っていながら通院する患者のことをよく学べるようになったのではないか。実習を受け入れることは、指導者にとっても良いことであり、学生の患者への援助プロセスも指導者から聞いている。学生にとって、前向きな実習ができていないのではないかと。

E : 様々な看護の能力を求められる時代であると感じる。

C 委員は、旧カリキュラムで学んだ学生であったが、新カリキュラムは健康支援としての保健師のような科目もある。率直にどう感じられたか。

C 委員：国試対策について重視されていると感じる。自分の年代の同期にも、国試に落ちる同期がいて辛い思いをしているところも見たので、目標をもって1年のころから国試対策を重視されているのはよいと思う。進路決定についても、自分も今働いている病院をどうしてそこに就職したかと問われるとはっきりとは言えない。実習しながらの就職活動だったので、実際にはそこまでは考えられなかった。学生への就職サポートがしっかりされていると感じた。就職すると実際と違うと思うところは多々あると思うので、これからも学校でもしっかりサポートをして欲しい。

E : どの病院に就職したいかがはっきりしない学生が、就職試験を受けて駄目だった時には、学生と一緒に面接で自分のなりたい看護師像がきちんと伝えられたかなどを確認しながら、再度、模擬面接をしている。どうしてこの病院を選んだかとなると、なかなか上手く言えない学生は多い。これからも、しっかり伝えられるようにサポートをしていきたい。

新カリキュラムになって、来年度の1年生で全学年が新カリキュラムとなる。同時に電子テキスト導入も3学年となる。Fは、電子テキストについてどう感じるか。

F : 教科書も紙ベースの方が良いという学生もいるが、電子テキストの方がいろいろと調べられるという利点もある。テキストのみに頼らず、調べる、使い込む、記憶に落とし込む。使い方によっては工夫をして知識の定着をさせることが必要と考える。

E : Gは、講義などでテキストを実際に使ってみてどう感じるか。

G : 電子テキストは、操作の問題で人によっては差があるので、上手くできないとついていけないこともあり、わからないまま諦めてしまう学生もいるように感じる。全然違うページを開いたりすることもあるが、講義中に全員の確認をすることは難しい。しかし、一つのタブレットで全テキストを見ることができると、例えば、基礎看護技術の講義中にでも解剖のテキ

ストを見たりなど、関連する様々なテキストを使えるのはよい点であると考え。気になる点は、学生がメールの通知などの誘惑に負けてしまうと、講義中でもメールやLINEをしたり、集中できない。動画をみるような学生もいるが、すべてを把握できていない現状がある。そこは、私たち教員の教育力というか講義の組み立て方などに工夫が必要なところなのではないかと思っている。

E : ディプロマポリシーに沿ってカリキュラムを組んでいるが、どのように教育をしていくか、困っていることはあるか、Fに伺いたい。

F : それぞれが講義の評価をしていくなかで、各学年によって基準は設定している。この学年はこの辺りまでというのを自己評価しながらしていく。座学だけでなく、演習を含めてどこまで成長しているのか、投げかけるのが難しい。こちらの言葉が足らないと、学生の反発になりやすい。

E : 育成人材像というのを考えながら、教育しているが、実践の少ない学生が不安を持って卒業していくことになる。看護協会の中で、どのような声があるか、何か気づきがあるか、A委員にお伺いしたい。

A委員 : コロナ禍でマスクをしているので、相手の表情を読み取るのが難しい、コミュニケーションをとるのが難しい、思考力が育つのが難しい。学生は、相手の人のことがわからないので、関わるというのが難しい状況にある。コロナ禍になって、病院には学生の状況を伝え、新人を気をつけて受け入れてはいるが、なかなかそこが上手くいかないという声はよくあった。私が病院で新人研修を70名くらいにしたときに、グループワークでも顔が見える関係だと声が出るが、顔が見えないとメッセージを伝えても声が出ないと感じた。本来ならば、自然に成長していくところなのに、コロナ禍のマスクのせいで、看護師にとって、学生は仲間なのに外部の人という感覚である。今の学生がおかれた環境は、通常の就学とは違ったが、就職して1~2年もするときちんと成長している。

カリキュラムは、昔は疾病が中心の内容であったが、今は年齢や性別、疾病など幅広いところまで受け止めなくてはいけないことに驚いた。よって、優先するところを捉える必要がある。ここをしっかりと伝えてもらえるといいと思う。タブレットを使える世代は、上手く記録はまとめられるが現実とのギャップに当たったときにどうするか、その辺りが課題。1年のうちから、ここまで国試対策をしていたらすごいと思う。国家試験に通らなければ意味がない。

看護師になったときに、自分がどうみられるかがわかるようになって欲しい。現場では、看護師不足で看護師は取り合い。患者から見れば、看護師はいて欲しい、来て欲しい存在。でも人がいない。勤務環境が悪い。県内で充足できるようにしていかないと大変だと考える。看護師は求められるものも多い。療養上の世話でも、看護師が自ら専門性を持っていくことも必要。だいたい就職して3~4年経つと次のステップに行くと考え。そこに自ら気づいていけるように成長して欲しい。

D : 1年生から国試対策をやる必要があると思われるようだが、少し違う。国試を意識した学習をすることで少しでも知識をつけて欲しいと思っている。1年のうちから成績が悪い学生はずっと悪い。国試対策は個人差が大きく、個別対応がとても重要。ここまでしても当校の国試の合格率はアップしていない。でも国試に対する忍耐力はついていると思う。1年のときの当校の学力は、模試で県内最下位だが、3年になると全国平均までアップ、県内では上位になっている。教員ががんばっている成果はある。実習に行ったときの非認知領域が育って欲しい

い。教員の力をかなり使うので、入学者の質が上がると教員が楽になる。自分としては、国試対策とはいえ、基本的な力をつけていきたい。

A 委員：国試対策と言っても、基本的な力をつけること、基本的な姿勢はとても大切である。今日の報告や話を聞いて、学生一人一人にきちんと対応されていると感じた。就職をしている人をみても大変なのに、学生個々に対応されるのはとても大変だと思う。教育は、学生からの教員への信頼も大切だと思う。

E : 以上より、(1) の令和5年度の取り組みと評価の報告から、(2) の令和6年度教育計画の方向で進めてもよろしいか。

A 委員：改正カリキュラムになって順調か。

E : 現段階では、まだ手付かずのところもあり、教員がどのように講義を組み立てて取り組むかはこれからになる。

A 委員：(了承される)

E : 来年度の教育計画について、了承されたということでよろしいか。より充実した教育になるよう、今後も魅力あるカリキュラムになるよう尽力していくので、ご協力をお願いしたい。

議事(2)について、全員一致で承認された。

次回、令和6年度第1回教育課程編成委員会は10月中旬以降の開催を予定(決まり次第日程調整)